

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	日本・日本語教育コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。	グローバル化する現代社会をマクロな視点から理解し、外国語コミュニケーション能力を身につけ、かつ日本や日本語について深い理解と知識を持った国際人、特に日本語教師をはじめとする国内外の国際交流分野で活躍できる優秀な人材を輩出する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。

学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>【学類のCP】</p> <p>必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。</p> <p>【コースのCP】</p> <p>日本の文化・社会・歴史及び日本語・日本語教育に対する深い知識を習得させるために、2年次以降は、日本語教師養成(主専攻レベル)のための専門科目50単位を中心に学ばせ、特に「日本語教授法」「日本語教育実習」等の演習・実習科目で実践力を身につけさせる。また、それらと平行して、留学生センターの日本語授業の補助や地域のボランティアなどで現場を体験させ、希望者には4年次次に「異文化体験実習Ⅰ(中国)」として単位認定の可能な海外教育実習も体験させる。</p>	<p>世界情勢を偏りなく見つけ、自己のアイデンティティを大切にしながら異文化を受け入れられる価値観や包容力を身につけている。</p> <p>日本の文化・社会・歴史や日本語・日本語教育についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。</p> <p>日本文化や日本語・日本語教育に対する深い理解と知識を有している。</p> <p>自国文化や母語についての深い理解を前提として、国内外で外国人に日本語を指導するための高度な知識や教授法を身につけている。</p> <p>英語などの外国語コミュニケーション能力とともに、日本語による高度なコミュニケーション能力を有している。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

コース(専攻)のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生への学習目標	学年	前期	後期	◎	○	△
16001	国際学入門	国際学の概要・基礎的概念を把握する	1	*		◎		
16002	国際政治史A	近代東アジア地域の国際関係の展開過程を理解する。	2	*		◎	○	○
16003	国際政治史B	暗黙の歴史を極力排除する。歴史過程は一定の合理性と法則性の元に進行することを学ぶ。ヨーロッパ理解の基礎を構築する。	2	*		○		
16004	国際関係論	主として戦後の国際政治の展開と現状を理解する	2	*		◎	○	
16004	国際関係論	国際政治全体についての理論を検討する。次いで、このテーマ、南北問題、地球環境、地域主義などのグローバルなテーマを理解する。それから、アメリカ、ヨーロッパ、中東を取り上げ、そこでの内政、国際関係を理解する。	2	*		△		
16005	国際コミュニケーション論	主としてマス・メディアに構成された自分たちの知識の源泉を今一度問い直す。我々の価値観なども日本の持つイメージによって形成されていることを学ぶ。国際人として、自国の枠組みにのみ囚われずに、国際的な基準で、公正に、公平にことがらを判断する力を身につけることを目標とする。	2	*				
16006	国際経済学	国際経済学の基本的モデルを修得する。この理解を通して、具体的な貿易利益、貿易政策の経済効果、国際的分業パターン、国際間労働・資本移動などの個々の事例を理解する。	2	*		△		
16007	世界システム論	1. 政治・経済・文化の一体化した現実を、それぞれの側面に解きほぐしながら、また全体としてとらえ、分析する能力を身に付ける。 2. 世界システムが個々の国や社会のあり方を規定する仕組みを分析する能力を身に付ける。	2	*		○	◎	
16008	国際貿易論	国際経済・貿易の基礎的知識を身につける	2	*		○		
16008	国際貿易論	グローバル化の現状の下で、新たな国家間の相互依存関係を学ぶ。日常生活における国際貿易に関するさまざまな問題を適正に理解し、判断する力を修得する。	2	*		△		
16009	国際協力論	国際協力・対外援助の必要性和実態を理解する	2	*		○		
16010	異文化理解	国際的事象を相対的な視点から考察する能力と方法論を獲得する。	2	*		◎	◎	
16037	国際経済学概論	グローバル化が進む現在、日本と世界がどのようにつながっているのか、また国際経済関係を考えるためにはどのような視点が必要なのか、その基礎的な知識や理論を学ぶ。	2	*		○		
16011	日本文化	戦後の代表的な日本人論・日本論に関する知識を習得するとともに、日本文化の見方を身につける	1	*		○	○	○
16012	日本の思想と宗教	神と仏との関係を外国人に説明できるようになる	2	*		○	○	○
16013	日本史概説	日本の近世史・近代史に関する理解を深める	2	*		○	◎	○
16014	日本経済論	日本資本主義の史的展開を通して、日本経済の今日的課題を分析・説明する視角を身につける。	2	*		○	○	△
16015	日本の伝統芸能	日本の伝統芸能の形成と展開を概観し、継承・保存の問題を考える力を付ける。	2	*		○	○	
16016	日本政治・外交史	幕末維新期から昭和戦前期の日本政治・外交の展開過程を理解する	2	*		◎	○	○
16017	日本政治・外交論	・英語のリーディングやリスニングを上達させる。・政治学及び国際関係の専門用語を紹介する。・国際的な観点から、日本の政治・外交史を理解する。	2	*		△	◎	△
16018	日本の言語と文化	日本人の言語行動を支配する社会文化的なルールについての意識を獲得するとともに、他の国々の言語と文化を比較できるようにする。	2	*		△	△	○
16019	日本民俗文化論	日本は長い歴史の中で海外の様々な国の文化と出会いながら、日本独自の伝統文化を築き上げてきたことを、主に明治時代以降の日米間の関係を中心に理解する。	2	*		△	△	△
16020	日本語学概論	主として現代日本語を中心に、外国人に対する日本語教育や日本人のための国語教育にとって必要な日本語の基礎知識を音声、語彙、文法、文字表記などの分野ごとに身につけ、日本語への理解と関心を深めることができる。	2	*	*	○	◎	◎
16021	日本語教育学基礎	・日本語教育をグローバルな視野で概観できる。 ・日本語教育の視点から、現在、世界や日本で起こっている現象を理解する。 ・外国人から見た日本語についてや、日本語を外国語として教えるための基礎的な事項を理解する。	2	*		○	◎	◎
16022	日本の文学	日本の文学伝統を具体的に理解する	2	*		○	◎	◎
16023	日本の古典文学	日本の古典文学に関する基礎的な知識を獲得すると共に、その受容の歴史について理解を深める	2	*		○	◎	◎

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	日本・日本語教育コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)						コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーに掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。						グローバル化する現代社会をマクロな視点から理解し、外国語コミュニケーション能力を身につけ、かつ日本や日本語について深い理解と知識を持った国際人、特に日本語教師をはじめとする国内外の国際交流分野で活躍できる優秀な人材を輩出する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。					
学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針)						コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)					
<p>【学類のCP】</p> <p>必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。</p> <p>【コースのCP】</p> <p>日本の文化・社会・歴史及び日本語・日本語教育に対する深い知識を習得させるために、2年次以降は、日本語教師養成(主専攻レベル)のための専門科目50単位を中心に学ばせ、特に「日本語教授法」「日本語教育実習」等の演習・実習科目で実践力を身につけさせる。また、それらと平行して、留学生センターの日本語授業の補助や地域のボランティアなどで現場を体験させ、希望者には4年次次に「異文化体験実習Ⅰ(中国)」として単位認定の可能な海外教育実習も体験させる。</p>						<p>世界情勢を偏りなく見つめ、自己のアイデンティティを大切にしながら異文化を受け入れられる価値観や包容力を身につけている。</p> <p>日本の文化・社会・歴史や日本語・日本語教育についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。</p> <p>日本文化や日本語・日本語教育に対する深い理解と知識を有している。</p> <p>自国文化や母語についての深い理解を前提として、国内外で外国人に日本語を指導するための高度な知識や教授法を身につけている。</p> <p>英語などの外国語コミュニケーション能力とともに、日本語による高度なコミュニケーション能力を有している。</p>					
コース(専攻)のカリキュラム											
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期						
16024	日本の近現代文学	語りや視点を意識して文学作品を読み解く意識付けができるようになる	2	*				○	◎	△	
16038	日本文化体験A	留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ	2	*		△		△	○	○	
16039	日本文化体験B	留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ	2		*	△		△	○	○	
16025	翻訳理論Ⅰ	受講生はまずは、英文を正確にかつ緻密に読む力が養われる。また、日本語らしい日本語に置き換えるためのさまざまな工夫も身につく。	2	*		△			○		◎
16026	翻訳理論Ⅱ	受講生はまずは、英文を正確にかつ緻密に読む力が養われる。また、日本語らしい日本語に置き換えるためのさまざまな工夫も身につく。	2		*	△			○		◎
16027	英語パブリックスピーキングⅠA	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*		△				○	◎
16028	英語パブリックスピーキングⅠB	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*		△				○	◎
16029	英語パブリックスピーキングⅡA	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2		*	△				○	◎
16030	英語パブリックスピーキングⅡB	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2		*	△				○	◎
16031	英語表現法ⅠA	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*						○	◎
16031	英語表現法ⅠA	1.To improve reading, speaking, listening and writing in English. 2.To learn to participate actively in an all-English environment. 3.To develop a clear understanding of various international perspectives and varying Japanese perspectives related to Japan's political history.	1~2	*			○	◎	○	○	△
16032	英語表現法ⅠB	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*						○	◎
16033	英語表現法ⅡA	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2		*					○	◎
16034	英語表現法ⅡB	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2		*					○	◎
16035	英語コミュニケーションⅠ	みずからの目的に応じた、英語コミュニケーション能力が増強できる。	1~2	*			○				◎
16036	英語コミュニケーションⅡ	みずからの目的に応じた、英語コミュニケーション能力が増強できる。	1~2		*		○				◎
51101	日本語の文字・表記	日本語の文字・表記に関する基本的な知識を身につけ、常用漢字表・現代仮名遣い・ローマ字のつづり方等、現代日本語表記の基準・目安について歴史的背景も含めて理解を深め、日本語教育に生かすことができる。	2		H22			◎	◎	◎	
51102	日本語の意味	日本語教師をめざす者として母語に敏感になるための一方策として、日本語の類義語や類義表現の意味の違いについて、用例をもとに客観的に観察し、分析する中で意味分析の方法を身につけることができる。	2		H22	△		○	◎	◎	○
51103	日本語史A	音韻・文法・敬語等の分野を中心に日本語の歴史的变化についての基本的な知識を身につけることと、現代日本語の特質や仮名遣いの問題についてより深く理解することができる。	2		H22			◎	◎	○	
51104	日本語史B	音韻および文字に関する個別の問題を考えることによって、日本語の歴史に対する認識を深めるとともに、日本語の置かれている位置、日本語の構造に対する多面的な見方を身につけることができる。	2		H22	△		○	◎	◎	

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	日本・日本語教育コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーに掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。					グローバル化する現代社会をマクロな視点から理解し、外国語コミュニケーション能力を身につけ、かつ日本や日本語について深い理解と知識を持った国際人、特に日本語教師をはじめとする国内外の国際交流分野で活躍できる優秀な人材を輩出する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。					
学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針)					コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)					
<p>【学類のCP】</p> <p>必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。</p> <p>【コースのCP】</p> <p>日本の文化・社会・歴史及び日本語・日本語教育に対する深い知識を習得させるために、2年次以降は、日本語教師養成(主専攻レベル)のための専門科目50単位を中心に学ばせ、特に「日本語教授法」「日本語教育実習」等の演習・実習科目で実践力を身につけさせる。また、それらと平行して、留学生センターの日本語授業の補助や地域のボランティアなどで現場を体験させ、希望者には4年次次に「異文化体験実習Ⅰ(中国)」として単位認定の可能な海外教育実習も体験させる。</p>					<p>世界情勢を偏りなく見つめ、自己のアイデンティティを大切にしながら異文化を受け入れられる価値観や包容力を身につけている。</p> <p>日本の文化・社会・歴史や日本語についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。</p> <p>日本文化や日本語・日本語教育に対する深い理解と知識を有している。</p> <p>自国文化や母語についての深い理解を前提として、国内外で外国人に日本語を指導するための高度な知識や教授法を身につけている。</p> <p>英語などの外国語コミュニケーション能力とともに、日本語による高度なコミュニケーション能力を有している。</p>					
コース(専攻)のカリキュラム										
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期					
51105	日本語文法A	1)日本語文法の基本を理解する 2)世界の言語から見た日本語の言語特性を理解する 3)日本語学としての日本語文法と日本語教育としての日本語文法の違いを学ぶ 4)ある語形がどのような文法的ふるまいをし、どのような意味用法を持つのかを、具体例を示しながら日本語学習者に対して説明できるようになる	2		H22	△	◎	◎	◎	○
51106	日本語文法B	様々なレベルの日本語学習者を教える上で必要な文法的概念についての知識を習得する。それらの知識を用いて、学習者の抱える個々の文法的問題を自分で考えて解決することができる。また、適切な例文を作り、学習者に提示しながら説明が出来る。	2	H22			◎	◎	◎	○
51107	日本語教科書研究	・日本語教育における「学習」について理解する ・日本語教科書や教材に関する基礎知識を習得する ・様々な視点から、日本語教科書を分析することができる ・日本語教科書の実際の使い方を考えることができる	2	H22		△	○	◎	◎	○
51108	日本語教授法A	1)日本語(文法、語彙・表現)や日本文化に対する理解を深める。2)「日本語を教える」とはどういうことなのか、その目的を理解し、そのために必要な教授法やコースデザイン、日本語の文法についての知識を深める。3)実際に初級レベルの日本語学習者をどのように指導するのか、指導の方法を学び、教案を作成する。4)模擬授業の形式で、実際に日本語を教える模擬体験をし、コミュニケーションを重視した日本語を指導するにはどのような知識や心構えが必要とされるのかを自ら学ぶ。	2	H22		○	○	◎	◎	○
51109	日本語教授法B	・日本語教授法Aで学んだ教授法の基礎的な知識と実践を確認する。 ・基礎的な教授法をもとに、技能別(聞く、話す、読む、書く)の教授法や応用的な教授法を理解する。 ・多様な日本語教育のニーズに対応するための、目的別の教授法を理解する。 ・交流型の日本語活動の理念と実施方法を理解する。 5)さまざまなタイプの模擬授業を計画し、実践する。	3~4	H22		△	○	◎	◎	◎
51110	日本語教育とコンピュータ	・日本語教育における学習ツールとしてのコンピューターについて理解した上で、使いこなす。 ・日本語教育における学習管理ツールとしてのコンピューターについて理解した上で、使いこなす。 ・日本語教育における教授ツールとしてのコンピューターについて理解した上で、使いこなす。 ・コンピューターのさまざまな機能を利用しながら、教材を作成する。	3~4	H22			△	◎	◎	○
51111	日本語教育評価法	・日本語教育の場面で用いられる評価法の目的・種類・形式・判断基準がどのようなものか説明できる。 ・利用目的に応じた評価法を選択できる。 ・おのおのの評価法を適切に用いることができる。	3~4	H22			△	◎	◎	○
51112	異文化理解と心理	異文化接触によって起こりうる様々な問題について、特に心理的、文化的、言語的側面から検討し、その対応について考察する。	3~4	H22		○	○	△	○	○
51113	第二言語習得論	・第二言語習得の基礎理論を概観し学ぶ。 ・日本語教育を第二言語習得の観点から見ることができる。 ・日本語教育の実例に触れ、問題点と解決法を考える。	3~4	H22		○	○	◎	◎	○
51114	日本語教育方法論	・従来の日本語教育の現場と、社会型日本語教育の流れも含めた「日本語教育の全体像」が概観できる。 ・従来イメージされていた日本語教育の専門性と、社会型日本語教育の専門性を簡単にはあるが、比較検討できる。 ・社会型日本語教育の中心活動となる「課題達成活動」「対話中心活動」の具体的方法について大体把握できる。	3~4			○	◎	◎	◎	◎
51115	日本語教育実習A(太田)	・これまでに学んだ日本語及び日本語教育学の知識と技術を統合し、実践の場で応用することができる。 ・教案やレポートを書き進めることで、創造性や論理思考を養うことができる。 ・教案やレポートに表計算ソフト(Excel)を使うことで、その使用方法を実践的に学び、教育だけでなく社会の様々な分野でも要求される同ソフトのスキルを習得することができる。	3~4	H22		◎	◎	◎	◎	○

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	日本・日本語教育コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーに掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。					グローバル化する現代社会をマクロな視点から理解し、外国語コミュニケーション能力を身につけ、かつ日本や日本語について深い理解と知識を持った国際人、特に日本語教師をはじめとする国内外の国際交流分野で活躍できる優秀な人材を輩出する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。					
学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針)					コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)					
<p>【学類のCP】</p> <p>必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。</p> <p>【コースのCP】</p> <p>日本の文化・社会・歴史及び日本語・日本語教育に対する深い知識を習得させるために、2年次以降は、日本語教師養成(主専攻レベル)のための専門科目50単位を中心に学ばせ、特に「日本語教授法」「日本語教育実習」等の演習・実習科目で実践力を身につけさせる。また、それらと平行して、留学生センターの日本語授業の補助や地域のボランティアなどで現場を体験させ、希望者には4年次次に「異文化体験実習Ⅰ(中国)」として単位認定の可能な海外教育実習も体験させる。</p>					<p>世界情勢を偏りなく見つめ、自己のアイデンティティを大切にしながら異文化を受け入れられる価値観や包容力を身につけている。</p> <p>日本の文化・社会・歴史や日本語・日本語教育についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。</p> <p>日本文化や日本語・日本語教育に対する深い理解と知識を有している。</p> <p>自国文化や母語についての深い理解を前提として、国内外で外国人に日本語を指導するための高度な知識や教授法を身につけている。</p> <p>英語などの外国語コミュニケーション能力とともに、日本語による高度なコミュニケーション能力を有している。</p>					
コース(専攻)のカリキュラム										
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期					
51116	日本語教育実習B(深澤)	・これまでに学んだ日本語教育の基礎的な知識と実践を確認する。 ・実際のコースに参加する日本語学習者のニーズや目的を把握したうえで、コースデザインを行う。 ・日本語コースに適合するカリキュラムを計画する。 ・実際の授業を担当する。 ・コースの目的という観点から、日本語の授業を分析しフィードバックする。	3~4			○	○	◎	◎	◎
51117	日本語教育史	外国人への日本語教育はここ30年ほどの期間に年々盛んになったと理解している学生が多いが、実は19世紀末から第二次世界大戦終結の1945年までの50年近い期間に、日本のアジア占領政策の中で行われた台湾、朝鮮半島、南洋諸島、中国満州での日本語教育が早い時期のものである。授業では、そのような戦前の海外での日本語教育の歴史を中心に概観し、日本語教育能力検定試験にも対応できるような知識を身につけさせる。	3~4		H22	○	○	○	◎	△
51118	音声学	言語教育における音声の重要性を理解し、日本語の音声について、日本語教育的観点から深く理解することができる。また、日本語を含む諸外国語の代表的音声の発音と聞き取りができるようになる。	2		H22	○	◎	◎	◎	○
51119	言語学概論1	・言語学の基本的な概念と考え方を理解する。 ・多様な言語の実例と理論のエッセンスに触れる。 ・音韻論、形態論、統語論などの分野の基礎固めをする。	2~4		H22	○	◎	○	△	△
51120	言語学概論2	・言語学の基本的な概念と考え方をさらに理解する。 ・多様な言語の実例と理論のエッセンスについて更に学ぶ。 ・意味論、社会言語学、比較言語学などの分野の基礎固めをする。	2~4		H22	○	◎	○	△	△
51121	対照言語学	日本語の言語学的特徴を、他言語との対照の中で再確認し、日本語の特徴を客観的に把握することで日本語教育に生かすことができる。	2		H22	△	◎	◎	◎	△
51122	認知言語学	英語という言語を認知言語学的な観点からみることによって、英語の特性を知り、認知言語学の分析法に習熟し、英語の理解力と表現力を上げる。	3~4		H22		○		△	△
51123	発達と学習の心理	発達の様相と学習成立のメカニズムを学び人間理解を深める。	3~4		H22	○	○		○	
51124	社会言語学	社会の中で生きる人間、ないしはその集団との関わりにおいて言語現象や言語運用を捉えようとする学問である社会言語学についての様々な事例を学び、日本語教育的観点から、現代日本語と社会の関係とその応用の可能性についての知識を得ることができる。	3~4		H22	◎	◎	◎	◎	○
51125	社会言語学実習	フィールドワーク(臨地調査)を通じて、文字言語の世界では体験できない生きた人間の話す日本語(地域語)の実態を知り、その体験の中から音声言語としての日本語、言語と社会の関係ひいては共通語とは異なる機能や価値をもつ地域語(方言)への理解を深める。	3~4		H22	△	○	◎	○	○
51126	日本研究特論A	いかに言語事実を発見、観察し、そこから一般化された記述を導き出すか、議論することを通して、記述的研究はどうあるべきかを学ぶ。	3~4		H22	△	○	◎	◎	△
51127	日本研究特論B	談話分析の基本的なことについて知識を得るとともに、日常のコミュニケーションに対する関心と観察力を深めることが到達目標	3~4					◎	◎	○
51128	日本研究演習A	前期最終回に卒業論文の指導教員(研究分野)の決定を行うので、そのための準備として、日本語教育、日本語学、日本文化分野に関する文献になるべく多く目を通し、その中から自分の関心のあるものについてレポートすることで、自分の研究テーマを絞り込めるようにする。また、他の学生の発表を聞き、教員の指導・助言から卒業論文のイメージを具体化する。後期は、指導教員(ゼミ教員)の指導を受けながら、卒業論文テーマを絞り込む。	3	H22	H22	○	◎	◎	○	○
51129	日本研究演習B	前期は、「日本研究演習A」の成果を踏まえ、ゼミ指導教員の個別指導を受けながら、卒業論文のテーマを確定し、執筆準備を進め、後期は、ゼミ指導教員の個別指導を受けながら、卒業論文を執筆し、完成させる。	4			○	◎	◎	○	○

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	日本・日本語教育コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。					グローバル化する現代社会をマクロな視点から理解し、外国語コミュニケーション能力を身につけ、かつ日本や日本語について深い理解と知識を持った国際人、特に日本語教師をはじめとする国内外の国際交流分野で活躍できる優秀な人材を輩出する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。					
学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針)					コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)					
<p>【学類のCP】</p> <p>必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。</p> <p>【コースのCP】</p> <p>日本の文化・社会・歴史及び日本語・日本語教育に対する深い知識を習得させるために、2年次以降は、日本語教師養成(主専攻レベル)のための専門科目50単位を中心に学ばせ、特に「日本語教授法」「日本語教育実習」等の演習・実習科目で実践力を身につけさせる。また、それらと平行して、留学生センターの日本語授業の補助や地域のボランティアなどで現場を体験させ、希望者には4年次秋に「異文化体験実習Ⅰ(中国)」として単位認定の可能な海外教育実習も体験させる。</p>					<p>世界情勢を偏りなく見つめ、自己のアイデンティティを大切にしながら異文化を受け入れられる価値観や包容力を身につけている。</p> <p>日本の文化・社会・歴史や日本語についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。</p> <p>日本文化や日本語・日本語教育に対する深い理解と知識を有している。</p> <p>自国文化や母語についての深い理解を前提として、国内外で外国人に日本語を指導するための高度な知識や教授法を身につけている。</p> <p>英語などの外国語コミュニケーション能力とともに、日本語による高度なコミュニケーション能力を有している。</p>					
コース(専攻)のカリキュラム										
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	前期	後期					
38001	インターンシップ	・民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等での業務内容を理解できる ・民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等での国際的な業務についても理解できる ・自らに適合した将来の進路を選択する能力を向上させる	3	H22		○	○	◎	◎	◎
38002	卒業論文	コースでの4年間の学びの集大成として、各自の興味・関心のあるテーマ(日本語教育、日本語学、日本文化分野等)について卒業論文を執筆する。	4			△	◎	◎	◎	△
別に定める	異文化体験実習Ⅰ(海外)	海外等での語学研修やボランティア活動等に参加して、コミュニケーション力を習得し、さまざまな文化に親しむ。	1~4	H22	H22	◎				◎
38151	異文化体験実習Ⅰ(ドイツ)	ドイツでのサマーコースに参加してドイツ語のコミュニケーション力をつけるとともにドイツの文化や生活に親しむ。	2~4	H22	H22	◎				
38152	異文化体験実習Ⅰ(フランス)	フランスの大学での語学研修に参加し、フランス語の運用能力を高める。フランスでの生活体験や課題の達成を通して、フランスの文化に親しむ。	2~4	H22		◎			△	
38153	異文化体験実習Ⅰ(中国)	中国社会・文化への理解の促進と中国語能力の向上	2~4	H22		○	○		○	○
38154	異文化体験実習Ⅰ(中国)	中国社会・文化への理解の促進と中国語能力の向上	2~4	H22		○	○		○	○
38155	異文化体験実習Ⅰ(イギリス)	たんなる語学研修に終わらない、イギリスに関する幅広い知識が習得でき、また、イギリスの人や風土とじかに接することができる。	1~4			○				◎
38201	異文化体験実習Ⅱ(海外)	海外等での語学研修やボランティア活動等に参加して、コミュニケーション力を習得し、さまざまな文化に親しむ。	1~4	H22		◎				◎
38202	異文化体験実習Ⅱ(ドイツ)	ドイツでのサマーコースに参加してドイツ語のコミュニケーション力をつけるとともにドイツの文化や生活に親しむ。	2~4	H22		◎				
38203	異文化体験実習Ⅱ(フランス)	フランスの大学での語学研修に参加し、フランス語の運用能力を高める。フランス語検定試験で適切な級の認定を受ける。	2~4	H22		◎			△	
38204	異文化体験実習Ⅱ(中国)	中国語検定試験二級合格を目指す。	2~4	H22						○
38205	異文化体験実習Ⅱ(イギリス)	ケンブリッジ語学研修を通して、さらなる英語の力を身につけるとともに、イギリスの語文化、歴史にじかに触れることで、英国の層の厚さを理解する。	1~4			○	○			○